

アルミ・銅関連事業



2006年度の事業環境と業績

アルミ圧延品の販売量は、飲料用缶材は天候不順の影響により減少したものの、国内・輸出とも自動車向けや半導体製造装置向け板材、磁気ディスク用アルミ基板などが堅調に推移したことから、前年度並みとなりました。

銅圧延品の販売量については、板条が自動車電装部品向けを中心に電子材料分野において引き続き堅調に推移したことや、銅管が海外を中心に増加したことなどから前年度を上回りました。

アルミ鑄鍛造品については、液晶向けが調整局面にあったものの、自動車向けは販売数量、売上高ともに好調に推移しました。

以上の結果、全体としての販売量は前年度並みとなったものの、地金価格の高騰により販売価格が押し上げられたことから、アルミ・銅関連事業の売上高は前年度に比べ30.3%増収の3,973億円となりました。

営業利益は、アルミ・銅の地金価格高騰に伴う在庫評価の影響等による収益押し上げ効果などにより、前年度に比べ113億円増益の346億円となりました。

戦略および投資

今後の戦略

アルミ・銅製品の需要は、自動車やIT・半導体分野を中心に需要の拡大が見込まれることから、概ね堅調に推移すると見えています。また、中期的には自動車向けアルミ材、半導体・液晶製造装置向けアルミ製真空容器、磁気ディスク用アルミ基板、および電子材料分野向け銅板条を中心に、需要の拡大が期待されています。

特に、自動車向けでは、環境に関わる法規制や自動車メーカーの環境問題への関心の高さから、量産車種でのアルミ使用が定着しつつあります。当社は自動車分野への取り組みを重点分野と位置づけ、競合他社に先行している材料から設計・組立の総合技術力を活かし、国内外で進展する自動車のアルミ化ニーズに対応していきます。

今後も、アルミ・銅分野で、技術開発力を武器に新たなマーケットの創造に取り組み、コスト・品質・顧客サービスのすべての点で国際競争力を有するリーディングカンパニーとして確固たる地位を確保していきます。



自動車用アルミ鍛造品



半導体・液晶製造装置用アルミ製真空容器

設備投資

2006年度は、基盤設備の劣化更新・新鋭化を中心に、グループ会社での投資も含め、今後の成長に不可欠な案件の実行を意思決定しました。今後も、重点分野と位置づける自動車・IT関連分野向けの強化を中心に、投資を確実に収益へ結びつけるべく、優先順位を厳しく見定めながら実行する方針です。

2006 - 2008年度グループ中期経営計画における目標と進捗状況

堅調な需要の取り込みに成功したことや、戦略投資案件も確実に立ち上げられたことにより、在庫の評価益を除いた部分でも、2006年度は中期計画を上回る営業損益を達成できました。2007年度も概ね堅調に推移すると見ており、中期経営計画で掲げました2008年度の目標に対して、着実に進捗しています。



アルミボトル缶



銅端子・コネクタ

トピックス

米国の自動車用アルミ鍛造部品の製造販売会社が生産能力増強

米国の自動車足廻り部材用アルミ鍛造部品の製造販売会社「コウベ アルミナム オートモーティブ プロダクツ社 (Kobe Aluminum Automotive Products, LLC、以下 KAAP)」が、製品需要の増加に対応するため4台目のプレス設備を追加導入することを決定しました。KAAPは、2003年5月に(株)神戸製鋼所、三井物産(株)、豊田通商(株)が合弁で米国・ケンタッキー州に設立し、2005年6月に量産を開始しました。2006年12月には3台目のプレスが稼働を開始し、今回導入が決定した4台目のプレスも2008年の4月より稼働開始の予定です。今後も、自動車軽量化ニーズの高まりの中、拡大が予想される需要に対応していきます。

蘇州神鋼電子材料有限公司が本格稼働を開始

中国における電子材料用銅板材(端子・コネクタ用およびリードフレーム用)のスリット加工・販売と技術サービス拠点「蘇州神鋼電子材料有限公司」が、2006年10月より本格稼働を開始しました。蘇州神鋼は、2005年5月に当社全額出資で設立し、試運転・サンプル評価等を経て、2006年7月より生産・出荷を開始しました。加工拠点から需要家へスピーディに製品を納入する体制を整えることで、需要増加に迅速かつ柔軟に対応していきます。



蘇州神鋼電子材料有限公司